

## 鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成 21 年 9 月 4 日)

### 為政第二

7 子游 孝を問う。子曰く、今の孝は、是れ能く養うを謂う。犬馬に至るまで、皆能く養うこと有り。敬せずんば、何を以て別たんやと。

子游は孔子より 45 歳年下で、礼法の専門家です。その子游が孝について孔子に質問をしました。孔子が答えるには、最近の孝というものは、養うだけのものをいうことが多い。犬馬に至るまで子供をよく食べさせるということはある。人間の孝と犬や馬の孝と、どうやって分ければよいのか。人間は親を扶養し、面倒を見るだけではいけない。必ず尊敬の念をもって親に尽くさねばならない。

こちら辺は自分自身の家庭をよく考えてみて、親御さんがもう亡くなっておられれば、亡くなる少し前はどうかだったろうかと考えてみて、親を粗末に扱っているのであれば、或いは扱ったという反省があれば、子供が自分を粗末に扱っても、そうそう文句は言えないだろうと感ずります。

8 子夏 孝を問う。子曰く、色難し。事有れば弟子其の勞に服し、酒食有れば先生に饌す。曾ち是れ以て孝と為すかと。

子夏が同じく孝を問っています。孔子が言うには、まず表情が嬉しそうでなければいけない。村で行事があれば、若者たちは勤労奉仕をするであろう。そしてその後、宴会をすれば、長老者たちに酒食を差し上げるであろう。これは表面的なものだから、親に対してもこれと同じように表面的な通り一遍の孝では、孝とは言わない。

ここは、「色養の孝」と言います。「色養の孝」とは、渋澤栄一がこういう言い方をしています。親の表情を見て、今おなかが空いているとか、何がして貰いたいのかを察するような孝行でなければいけないということです。

9 子曰く、吾回と言うこと終日、違わざること愚なるが如し。退きて其の私を省れば、亦以て発するに足れり。回や愚ならず。

孔子が言うには、顔回と一日中、朝から晩まで話をしている、一切、顔回は私に対し

て異論を言わないし質問もしない。何も言わないで、ただじっと、愚か者が座っているだけのように見える。しかし顔回が退いて、日常生活でどのように私の言ったことを活かしているか観察してみると、非常に明らかなことであった。「一を聞いて十を知る」の例えの如く、私の言った事を上回って行動している。これは大した人間だ。

10 <sup>しいわ</sup>子曰く、<sup>そ</sup>其の<sup>な</sup>以<sup>ところ</sup>す<sup>み</sup>所<sup>を</sup>視、<sup>そ</sup>其の<sup>よ</sup>由<sup>ところ</sup>る<sup>み</sup>所<sup>を</sup>観、<sup>そ</sup>其の<sup>やす</sup>安<sup>ところ</sup>ん<sup>さつ</sup>ず<sup>る</sup>所<sup>を</sup>察すれば、<sup>ひと</sup>人<sup>とい</sup>焉<sup>ず</sup>く  
<sup>かく</sup>んぞ<sup>ひと</sup>度<sup>い</sup>さん<sup>ず</sup>か<sup>く</sup>や、<sup>かく</sup>人<sup>い</sup>焉<sup>ず</sup>く<sup>か</sup>んぞ<sup>か</sup>度<sup>く</sup>さん<sup>か</sup>や。

孔子が言うには、人間と付き合う時には、観察する方法がある。視・観・察というものである。

<sup>そ</sup>其の<sup>な</sup>以<sup>ところ</sup>す<sup>み</sup>所<sup>を</sup>視・・・その人間がどのような行動をとるかをよく観察する必要がある。  
例えば、鳩山さんがどういう行動をするか。余裕があれば小沢さんがどういう行動をするか。その行動をよく観察をすることです。

<sup>そ</sup>其の<sup>よ</sup>由<sup>ところ</sup>る<sup>み</sup>所<sup>を</sup>観・・・その動機は何かをよく見る。

高速道路無料や、子供手当で一人当たり 312,000 円のお金を助成するとか、消費税を 4 年間上げないとか、いくつかの発言をしています、それはどういう動機なのかをよく見極める必要がある。その動機が自分なりに納得できたら、その次の段階になります。

<sup>そ</sup>其の<sup>やす</sup>安<sup>ところ</sup>ん<sup>さつ</sup>ず<sup>る</sup>所<sup>を</sup>察すれば・・・本人が満足をしたところ、どういう時に満足するのかをよく見る。

高速道路が無料になった時に、鳩山さんがこれで良かったと満足するのはどこなのか。これから賛成・反対色々な発言が出てくると思うのですが、これで良かったと鳩山さんが言う時があるかどうか、なければ表情をよく見て、腹の中を洞察する必要があると思います。

これは人間観察法といって、安岡正篤先生がこれを元にして「見・観・察」という人物観察法を世に紹介しています。

そういうふうに、その人物の行動・動機・満足感をしっかり国民が見ていれば、どうにも隠せるわけがない。全部腹の底まで見透かされてしまうだろうから、次、4年後に投票する時には、大いにその結果を活かす方がよろしいでしょう。このように視・観・察を読みましたのでご紹介しました。